

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ①グリーン・イノベーション分野(2/9)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
次世代エネルギー・モビリティ創造特区 (豊田市)	4.7	4.9 <u>進捗度</u> ・再生可能エネルギー(太陽光、小水力等)の地産地消率の向上 196% ・モビリティの活用によるCO2の削減(運輸部門) 182% ・市域経済の成長 192%	3.8 <u>規制の特例等</u> ・HEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)を介したスマートフォンによる遠隔操作 <u>財政支援等</u> ・人がつながる“移動”イノベーション拠点～高齢者が元気になるモビリティ社会～ 等 <u>地域独自の取組</u> ・豊田市エコファミリー支援補助金 等	5.0	<p>・地域の持つ素地を十分に活かして、ほとんどの指標について目標値を上回る進捗となっている。</p> <p>・エネルギー・モビリティの次世代技術を核とした、地域経済活性化と低炭素な都市環境構築へ向け、着実に取組を積み重ねている。雇用機会の創出にもつながっている。</p> <p>・モビリティについては近年国際的に大きな転換期を迎えており、それに柔軟に対応できるような取組が期待される。</p> <p>・市民からの評価については定量化しがたい分野であるが、引き続きその妥当な評価手法について検討が望まれる。平成30年度に予定されているエコフルタウンのリニューアルで今後も市民意識向上への寄与が期待される。</p>